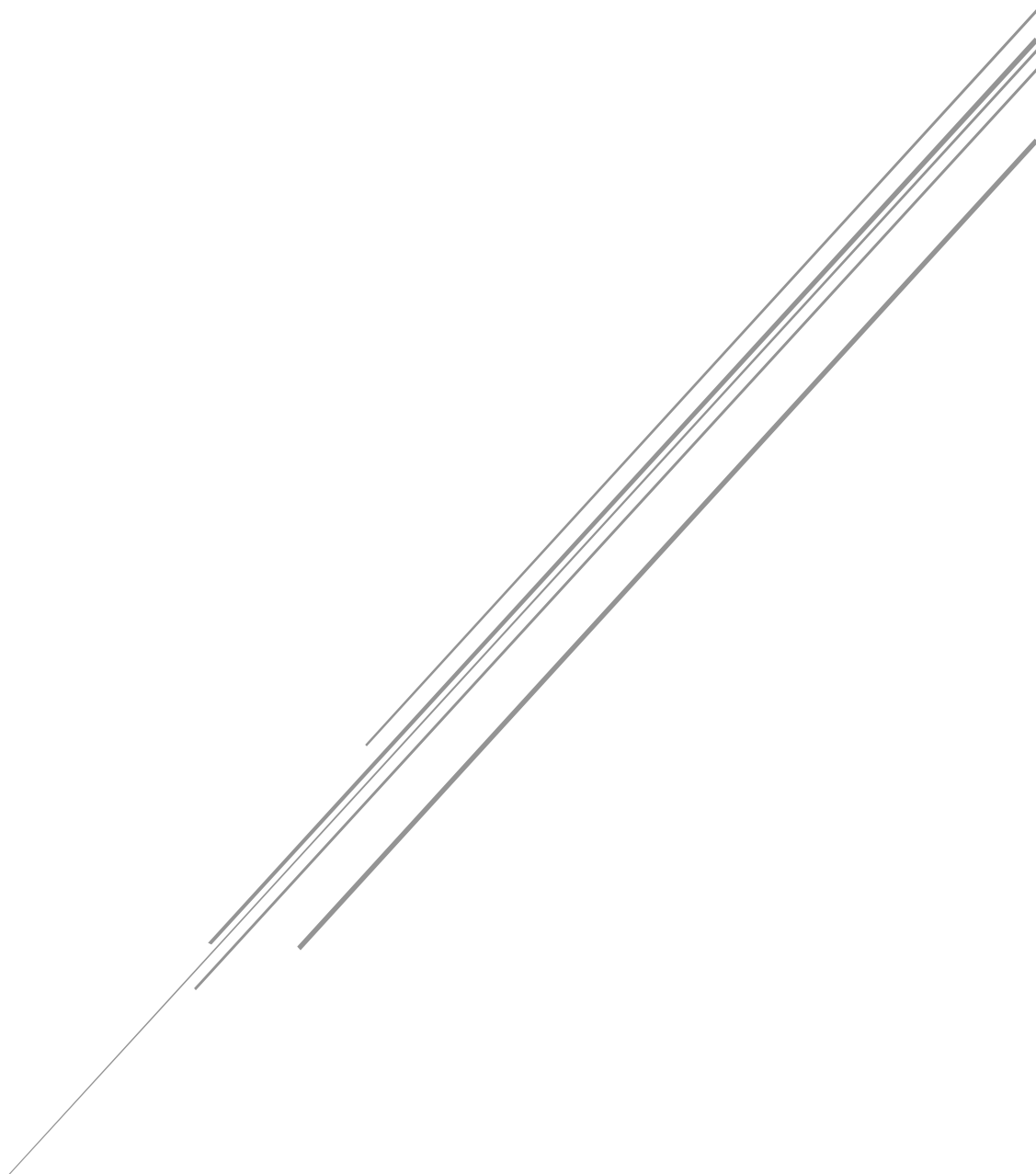


2019年（令和2年度）

千葉県・千葉市教員採用試験

教職教養の問題



問1 次の文章は、「高等学校学習指導要領解説 総則編」の「第6章 第1節 1 ホームルーム経営、生徒の発達支援(第1章総則第5款1(1))の一部である。文章中の(a)～(c)にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい(a)を育てるため、日頃からホームルーム経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の(b)な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う(c)の双方により、生徒の発達を支援すること。

- | | | | |
|---|--------|------|-----------|
| ① | a 人間関係 | b 複雑 | c メンタルケア |
| ② | a 対人関係 | b 多様 | c カウンセリング |
| ③ | a 人間関係 | b 複雑 | c コーチング |
| ④ | a 対人関係 | b 多様 | c メンタルケア |
| ⑤ | a 人間関係 | b 多様 | c カウンセリング |

問2 「中学校学習指導要領解説 総則編」の「第1章 1 (2) ③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」に関する内容として、適切でないものを選びなさい。

- ① 児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで地道に取り組み蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない。
- ② 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進める。
- ③ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とする。
- ④ 1回1回の授業で全ての学びを実現することを目指し、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく。
- ⑤ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視する。

問3 次の文は、「小学校学習指導要領」の「第1章 第3 教育課程の実施と学習評価」に関するものである。文中の(a)～(c)にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

・児童が各教科等の特質に応じた(a)を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを軸に(b)したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

・創意工夫の中で学習評価の(c)が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

- ① a 思考・判断力 b 創造 c 正当性や確実性
- ② a 見方・考え方 b 創造 c 妥当性や信頼性
- ③ a 思考・判断力 b 実現 c 正当性や確実性
- ④ a 見方・考え方 b 対話 c 妥当性や信頼性
- ⑤ a 見方・考え方 b 実現 c 正当性や確実性

問4 次の文は、「小学校学習指導要領」の「第1章 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割」の一部である。文中の(a)～(c)に当てはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

4 各学校においては、児童や学校、(a)の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を(b)な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「(c)」という。)に努めるものとする。

- ① a 地域 b 教科等横断的 c アクティブ・ラーニング
- ② a 家庭 b 系統的 c カリキュラム・マネジメント
- ③ a 教職員 b 系統的 c PDCA サイクル
- ④ a 地域 b 教科等横断的 c カリキュラム・マネジメント
- ⑤ a 家庭 b 教科等横断的 c PDCA サイクル

問5 次の文は、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（平成28年度）〔速報値〕及び平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針について（通知）」（平成29年12月 文部科学省）の一部である。文中の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

新学習指導要領においては、（a）能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した（b）の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においては、プログラミング教育が（c）されるなど、今後の学習活動において、積極的にICTを活用することが想定されています。

- ① a 情報活用 b 教育活動 c 必修化
- ② a 情報活用 b 学習活動 c 必修化
- ③ a 情報活用 b 教育活動 c 教科化
- ④ a 情報収集 b 学習環境 c 教科化
- ⑤ a 情報収集 b 学習活動 c 義務化

問6 「いじめ防止対策の推進に関する調査結果に基づく勧告を踏まえた対応について（通知）」（平成30年3月 文部科学省）の中の「1. いじめの正確な認知の推進」に関する内容として、適当でないものを選びなさい。

- ① いじめの認知件数に学校間で大きな差がある場合などは、その原因を分析し、いじめの認知に関する消極姿勢や認知漏れがないかを十分確認する。
- ② 職員会議や各学校に設置する「いじめ防止等のための組織」の会合等において、いじめの正確な認知に関する教職員間での共通理解を図る。
- ③ いじめの認知件数が零であった場合は、当該事実を見守りや保護者向けに公表し、検証を仰ぐことで、認知漏れがないか確認する。
- ④ いじめの認知に関する考え方をまとめた教職員向けの飼料（いじめ認知について（平成28年通知別添資料））を全ての教職員へ配布する。
- ⑤ 実際の事案において、いじめの定義とは別の要素（加害行為の「継続性」「集団性」等）を判断基準とする場合、いじめとして認知しないようにする。

問7 「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」(平成27年12月中央教育審議会)の「3.(1) ②教員以外の専門スタッフの参画」に示されている専門スタッフとして適当でないものを選びなさい。

- ① 部活動に関する専門スタッフ
- ② 特別支援教育に関する専門スタッフ
- ③ 教育課程の編成に関する専門スタッフ
- ④ 心理や福祉に関する専門スタッフ
- ⑤ 授業等において教員を支援する専門スタッフ

問8 次の条文は、「学校教育法施行規則 第78条の2」の一部である。条文中の(a)～(c)にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

第78条の2 部活動指導員は、(a)におけるスポーツ、(b)、科学等に関する教育活動((a)の教育課程として行われるものを除く。)に係る(c)な指導に従事する。

- ① a 小学校 b 文化 c 専門的
- ② a 中学校 b 芸術 c 技術的
- ③ a 高等学校 b 文化 c 実践的
- ④ a 中学校 b 文化 c 技術的
- ⑤ a 高等学校 b 芸術 c 専門的

問9 「第3次千葉県食育推進計画」(平成28年12月 千葉県・千葉県教育委員会)の「第5章 第2 II 2 小学生・中学生」に関する内容として、最も適当なものを選びなさい。

- ① 栄養教諭等は、学校における給食指導のみを充実させ、児童生徒が望ましい食習慣を身に付けられるよう、学校給食指導体制の要としての役割を担っている。
- ② 児童生徒の食については、家庭が担う部分が大きいため、学校は、「食」に関する情報等を積極的に保護者に提供して、食育に関する取組を家庭に任せる。
- ③ 食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるために、献立内容を教科等の食に関する指導と関連付け、学校給食を生きた教材として活用した効果的な学習の実践を推進する。
- ④ 各学校が、総合的な学習の時間の中に、地域の特性・特色を生かし、自然や社会との関わりをもった様々な体験活動を必ず位置付けて、効果的な食育の推進が図れるよう働きかける。
- ⑤ 学校における食育は、家庭科(中学校:技術・家庭科)、体育科(中学校:保健体育科)等の各教科、給食の時間、特別活動等の様々な教育内容に密接に関わっているが、食に関する指導の全体計画を作成する必要はない。

問10 「第3次 千葉県青少年総合プラン 2018~2022」(平成30年3月 千葉県)の「第3章 IIIの柱 基本目標5 基本方策⑪ 家庭・学校・地域の連携」に関する内容として、適当でないものを選びなさい。

- ① 家庭教育が困難な状況にある家庭に対して相談対応の充実を図るなど、地域社会が一体となった支援を推進する。
- ② 学校運営に支障のない範囲で学校施設を開放し、地域住民の学習の促進や体力の向上、健康の増進を図るとともに、子ども・若者と地域住民との交流を図る。
- ③ 就労等で保護者が昼間家庭にいない児童の健全育成の場である「放課後児童クラブ」の整備を推進する。
- ④ 保護者や地域住民が、ボランティアとして学校運営に参画することで、より良い教育の実現とともに、地域に開かれ、地域とともに歩む学校づくりを目指す。
- ⑤ 全ての子どもを対象に、安心・安全な活動拠点(居場所)づくりのため、放課後や土曜日等に余裕教室等を活用し、教職員の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動、交流活動等を行うなど、放課後子供教室の取組を推進する。

問 11 次の文章は、「学校における働き方改革推進プラン」（令和元年 5 月改定 千葉県教育委員会）の「3 学校における働い方改革の目的」に関するものである。文章中の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

「学校における働き方改革」の実現により、教職員一人一人が誇りをもって働くことができるようになることが、ひいては、児童生徒の（a）にも良い影響として還元される。そこで、「学校における働き方改革」を進めるに当たっては、これまで学校が果たしてきた役割も十分踏まえつつ、教職員が、心身の健康を損なうことのないよう、業務の質的転換及び（b）・精選を図り、授業やその準備に集中できる時間、自らの（c）の時間を確保できる勤務環境を整備することが必要である。

- ① a 教育 b 量的削減 c 専門性を高めるための研修
- ② a 健康 b 量的確保 c 心身の十分な休養
- ③ a 生活 b 量的確保 c 専門性を高めるための研修
- ④ a 健康 b 量的削減 c 心身の十分な休養
- ⑤ a 教育 b 量的削減 c 心身の十分な休養

問 12 次の文は、「平成 30 年度ちばっ子『学力向上』総合プラン（ファイブ・アクション）」（千葉県教育庁）の一部である。文中の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」の実現を目指し、「（a）活動や体験学習を通じた学習意欲の向上」「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」「授業力の向上による学びの（b）」「学力向上に係る取組の適切な（c）の推進」「信頼される質の高い教員の育成」の 5 つの視点による、ちばっ子「学力向上」総合プランの各事業を展開することにより、学力向上を図っていきます。

- ① a 読書 b 深化 c 評価・改善
- ② a 言語 b 深化 c 分析・対応
- ③ a 言語 b 充実 c 評価・分析
- ④ a 表現 b 充実 c 評価・改善
- ⑤ a 読書 b 拡充 c 分析・対応

問 13 次は、「規律ある明るい学校環境づくり ～暴力行為を防止し、よりよい人間関係づくりのために～」(平成 30 年 3 月改訂 千葉県教育委員会)に示されている「Ⅲ 対策と具体的な取組例 -10 の対策-」である。次の (a)～(c) にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

- | | |
|---------|--|
| 【対策 1】 | 暴力行為チェックリストの作成・活用を通して、自校の状況を把握する |
| 【対策 2】 | 児童生徒一人一人の実態把握に努める |
| 【対策 3】 | (a) を重視した「わかる授業」を展開する |
| 【対策 4】 | 学校教育全体で道徳教育の充実を図る |
| 【対策 5】 | コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係づくりをすすめるとともに体験活動を通じて (b) を育成する |
| 【対策 6】 | 美しく安全な校内環境を整備する |
| 【対策 7】 | あいさつ運動や下校時等のパトロールを実施する |
| 【対策 8】 | 暴力行為防止のための (c) を形成する |
| 【対策 9】 | サポートチームを編成し、特定の児童生徒への支援を行う |
| 【対策 10】 | 犯罪行為の重大さを考える機会を設定する |

- | | | | |
|---|-----------|-------|----------|
| ① | a 生徒指導の機能 | b 協調性 | c 組織 |
| ② | a 生徒指導の機能 | b 社会性 | c ネットワーク |
| ③ | a ICTの活用 | b 社会性 | c チームワーク |
| ④ | a ICTの活用 | b 協調性 | c ネットワーク |
| ⑤ | a 生徒指導の機能 | b 社会性 | c チームワーク |

問 14 「千葉県・千葉市教員等育成指標」（平成 30 年 3 月 千葉県教育委員会）の「教員等が身に付けるべき資質能力の 4 つの柱」に関する内容として、適当でないものを選びなさい。

- ① 教職に就く者として必要な使命感・教育的愛情・倫理観をもち、服務規程を遵守するとともに、幼児児童生徒及び地域と積極的に関わる社会性やコミュニケーション能力が求められている。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む能力が求められるとともに、特別な支援を必要とする幼児児童生徒について、その状況を把握し、家庭や関係機関と連携して学習上の支援をすることが必要となる。
- ③ 幼児児童生徒の心身の発達の特徴、特別な支援を必要とする幼児等を含めた個々の状況を把握、理解するとともに、信頼関係を構築し、学級経営、個別の指導、進路指導等を適切に行う力が求められている。
- ④ 生徒指導上の課題等に関しては、共感的に対応し、学校単独でその原因となっている部分を重点的に指導することが必要になる。
- ⑤ 学校教育目標の実現に向け、教育課程を確実に実施するとともに、組織の一員として学級運営を支える力となり、他の教職員と連携・調整しながら、自分の役割を果たそうとする姿勢が必要となる。

問 15 次の文は、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成 27 年 12 月 中央教育審議会）の「2. これからの時代の教員に求められる資質能力」の一部である。次の文の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

これまで教員として（a）とされてきた資質能力に加え、（b）に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結び付け（c）する力などが必要である。

- ① a 恒久 b 主体的 c 構造化
- ② a 恒久 b 自律的 c 一般化
- ③ a 必要 b 自発的 c 一般化
- ④ a 不易 b 自発的 c 抽象化
- ⑤ a 不易 b 自律的 c 構造化

問 16 次の文章は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の額数指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 中央教育審議会）の「第 1 部 第 8 章 1. 学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実」の一部である。文章中の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

今回、子供たちの学習や生活における（a）の重要性が、今一度捉え直されたことを受けて、特別活動においても、第 2 部第 2 章 16. に示すとおり、学級活動・（b）の中心的な意義を踏まえた上で改善が図られることが求められる。総則においても、（c）を通じた学級・ホームルーム経営の充実を図り、子供の学習活動や学校生活の基盤としての学級という場を豊かなものとしていくことが重要である。

- | | | | |
|---|---------|------------|------------|
| ① | a 学校や学級 | b ホームルーム活動 | c 小・中・高等学校 |
| ② | a 学校や学級 | b 体験活動 | c 学校教育全体 |
| ③ | a 学校や学年 | b ホームルーム活動 | c 小・中・高等学校 |
| ④ | a 学校や学年 | b 体験活動 | c 学校教育全体 |
| ⑤ | a 学年や学級 | b ホームルーム活動 | c 小・中・高等学校 |

問 17 次の条文は、「いじめ防止対策推進法」(平成 25 年 文部科学省)の「第一章 総則」の一部である。条文中の (a) ～ (c) にあてはまる語句の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。

第 2 条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の (a) にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が (b) の苦痛を感じているものをいう。

第 8 条 学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、当該学校に在籍する児童等の保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び (c) に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。

- ① a 対立関係 b 精神 c 早期解決
- ② a 人的関係 b 心身 c 早期発見
- ③ a 交友関係 b 精神 c 早期発見
- ④ a 人的関係 b 心身 c 早期解決
- ⑤ a 交友関係 b 肉体 c 早期発見

問 18 「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」(平成 27 年 4 月 文部科学省)に関する内容として、最も適切なものを選びなさい。

- ① 性同一性障害に係る児童生徒の支援は、担任などの最初に相談を受けた者が、管理職以外の他の教職員に秘密を漏らすことなく、児童生徒の対応にあたる。
- ② 医療機関との連携に当たっては、当事者である児童生徒や保護者の意向を踏まえることが原則であり、当事者である児童生徒や保護者の同意が得られない場合、医療機関から一切の助言を受けてはならない。
- ③ 保護者が、その子供の性同一性に関する悩みや不安等を受容していない場合にあっては、学校における児童生徒の悩みや不安を軽減し問題行動の未然防止等を進めることを目的として、保護者と十分話し合い可能な支援を行っていく。
- ④ 性同一性障害に係る児童生徒が求める支援は、当該児童生徒が有する違和感の強弱等に応じ様々であり、また、当該違和感は成長しても強弱が減るなどの変動の可能性はないので、長期的な視野を持って支援をする必要がある。
- ⑤ 医療機関を受診して性同一性障害の診断がなされない場合は、医療機関との相談の状況、児童生徒や保護者の意向を踏まえた児童生徒の支援を行うことはできない。

問 19 次の文章は、「生徒指導リーフ 生徒指導って、何？ Leaf.1」（平成 27 年 3 月 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター）に関するものである。文章中の（a）～（c）にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

生徒指導とは、・・・

生徒指導とは、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけの総称のことです。

すなわち、

学校生活の中で児童生徒自らが、その（a）を伸ばすとともに、さらなる社会的能力を獲得していくこと

そして、

それらの資質・能力を適切に行使して（b）を図りながら自己の幸福と社会の発展を追求していく大人になること

そうしたことを願って児童生徒の（c）かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけのことを、生徒指導と呼んでいます。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-----|
| ① | a | 社会的資質 | b | 人格形成 | c | 自発的 |
| ② | a | 生きる力 | b | 自己実現 | c | 能動的 |
| ③ | a | 生きる力 | b | 自己決定 | c | 自発的 |
| ④ | a | 個性 | b | 人格形成 | c | 能動的 |
| ⑤ | a | 社会的資質 | b | 自己実現 | c | 自発的 |

問 20 「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 報告）」（平成 28 年 3 月 文部科学省）の「3. 高等学校における通級による指導の制度設計」に関する内容として、最も適当なものを選びなさい。

- ① 高等学校における通級による指導について、そこで身に付けたことを他の教科・科目の学習で発揮できるよう、障害の状態に関わらず各教科・科目の内容を補充するための特別の指導を実施する必要がある。
- ② 通級による指導の対象は、小・中学校と同様に、高等学校においても障害者手帳が必要である。
- ③ 知的障害については、小・中学校等における通級による対象とされている。高等学校においても同様の取扱いとすることが適当である。
- ④ 高等学校における通級による指導の基本的な考え方は、小・中学校等における通級による指導との連続性を図る観点から、小・中学校等と同様、一定の時間、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な指導を行うこととすることが必要である。
- ⑤ 通級による指導の担当教員は、高等学校教諭免許状を有する者であり、加えて、特別支援教育に関する知識を有し、障害による学習上又は生活上の困難の改善又は克服を目的とする指導に専門性や経験を有する教員であることが不可欠であり、特定の教科の免許状を保有している必要がある。

問 21 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」(平成 29 年 3 月 文部科学省)の「第 3 部 ○通常学級の担任・教科担任用」に関する内容として、適当でないものを選びなさい。

- ① 通常の学級の担任・教科担任は、自身の学級に教育上特別の支援を必要とする児童等がいることを常に想定し、その可能性がある場合は保護者に医療機関への受診を勧める。
- ② 通常の学級の担任は、特別支援教育コーディネーターと連携して、教育上特別の支援を必要とする児童等の個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成の中心を担い、適切な指導や必要な支援に生かす。
- ③ 通常の学級において、教育上特別の支援を必要とする児童等に対して適切な指導や必要な支援をするとともに、温かい学級経営及び分かりやすい授業を心がける。
- ④ 通常の学級の担任・教科担任は、教育上特別の支援を必要とする児童等への適切な指導や必要な支援を行うために、校内外の様々な人材や組織を活用する。
- ⑤ 通常の学級の担任は、保護者が児童等の教育に対する第一義的に責任を有する者であることを意識し、保護者と協働して、支援を行う。

問 22 次は、「第 2 次千葉県特別支援教育推進基本計画－共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進－」(平成 29 年 10 月 千葉県教育委員会)の「第 3 章 第 2 節 II 連続性のある『多様な学びの場』と支援の充実」に示されている主な取組である。次の(a)～(c)にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

主な取組 1	地域で共に学び育つ教育の推進
主な取組 2	合理的配慮の充実と (a) の推進
主な取組 3	学校を支える (b) や地域の教育資源の活用と充実
主な取組 4	(c) における特別支援教育の充実
主な取組 5	I C T を活用した教育の推進
主な取組 6	特別支援学校が有する多様な教育機能の活用
主な取組 7	様々な困難をかかえる子供への支援の充実

- ① a 基礎的環境整備 b 外部人材 c 高等学校
- ② a 基礎的環境整備 b P T A c 高等学校
- ③ a 通級による指導 b 外部人材 c 通常の学級
- ④ a 通級による指導 b P T A c 高等学校
- ⑤ a 特別支援教育 b 保護者 c 通常の学級

問 23 「全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査等）の「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」（文部科学省）に関する内容として、適当でないものを選びなさい。

- ① 小学校は 50 か国・地域、中学校は 40 か国・地域が参加し、日本では小学校 4 年生約 4400 人、中学校 2 年生約 4700 人が参加した。
- ② 小学校、中学校ともに、全ての教科において、引き続き上位を維持しており、前回調査に比べ平均得点が有意に上昇している。
- ③ 小学校、中学校ともに、「算数・数学は楽しい」と思う児童生徒の割合は増加し、中学校においては国際平均との差が縮まっている傾向が見られるが、「算数・数学は得意だ」と思う児童生徒の割合は横ばいである。
- ④ 小学校においては、「理科は楽しい」と回答している児童が約 9 割となっており、国債平均を上回っている。また、「理科が得意だ」と回答している児童の割合は増加している傾向が見られる。
- ⑤ 中学校においては、「理科は楽しい」と回答している生徒の割合が増加し、国際平均との差が縮まっている傾向が見られるが、「日常生活に役立つ」「将来、自分が望む仕事につくために、良い成績をとる必要がある」と思う生徒の割合が減少し、国際平均との差が広がっている傾向が見られる。

問 24 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ (答申)」(平成 27 年 12 月 中央教育審議会)の「4. 改革の具体的な方向性」に関する内容として適当でないものを選びなさい。

- ① 国は、各都道府県の状況を踏まえ、効果的な若手教員研修が行えるよう、初任者研修の運用方針を見直す。
- ② 学校インターンシップの実施について、教育実習との役割分担を明確にして、大学の教育課程において義務化を図るように努める。
- ③ 教育課程については、学校種ごとの特性を踏まえつつ、「強化に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分を撤廃し、新たな教育課題等に対応できるよう見直す。
- ④ 「教員は学校で育つ」ものであり、同僚の教員とともに支え合いながら O J T を通じて日常的に学び合う校内研修の充実や、自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修に対する支援のための方策を講じる。
- ⑤ 教員がキャリアステージに応じて身に付けるべき資質や能力の明確化のため、各都道府県は教員育成指標を整備する。

問 25 次の文は、「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」(平成 30 年 4 月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著)の「第 2 章 1 スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方」に関するものである。文中の (a) ～ (c) にあてはまる語句の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

- ・ 幼児の (a) の様子を理解した上で、カリキュラムをデザインすることが重要である。
- ・ 10 分から 15 分程度の短い時間を活用して時間割を構築したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりするような工夫が必要である。
- ・ 生活科を中心とした (b) な指導の充実を図ることが重要である。
- ・ 児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く (c) を見直す必要がある。

- | | | | |
|---|---------|-----------|--------|
| ① | a 学び | b 教科等横断的 | c 学習環境 |
| ② | a 日頃 | b 実践的 | c 生活環境 |
| ③ | a 発達や学び | b 合科的・関連的 | c 学習環境 |
| ④ | a 学び | b 合科的・関連的 | c 学校生活 |
| ⑤ | a 発達や学び | b 教科等横断的 | c 生活環境 |

問 26 文部科学省は、「平成 29 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（平成 30 年 10 月）の中で、全国の学校、（国公立小・中・高等学校及び特別支援学校等）における平成 29 年度のいじめの認知件数が、高等学校を除き過去最高になったことを公表した。平成 28 年度のいじめの認知件数からおよそ何件増えたか、最も適当なものを選びなさい。

- ① 17,000 件 ② 31,000 件 ③ 65,000 件 ④ 91,000 件 ⑤ 113,000 件

問 27 学習を成立させる条件には大きく分けて、教師や教材も含めた学習者の外的な条件と、学習者の内側に準備された内的条件とがある。この学習に対する内的条件を何と言うか、最も適当なものを選びなさい。

- ① セッティング ② トラッキング ③ レディネス ④ IQ ⑤ プラトロー

問 28 次の慣用表現と意味の組合せのうち、最も適当なものを選びなさい。

- ① 満を持す・・・あやまちを繰り返さないように常に油断しないこと
② 世間ずれ・・・世の中の考えから外れていること
③ 琴線に触れる・・・怒りを買うこと
④ 斜に構える・・・身構える、改まった態度をすること
⑤ 割愛する・・・必要がないので省略すること

問 29 次の四字熟語の（a）～（d）にあてはまる漢字の組合せとして、最も適当なものを選びなさい。

・無我（a）中	・危機一（b）	・行（c）流水	・五里（d）中
---------	---------	---------	---------

- ① a 夢 b 髪 c 雲 d 霧
② a 夢 b 髪 c 人 d 霧
③ a 霧 b 発 c 山 d 夢
④ a 夢 b 発 c 雲 d 霧
⑤ a 霧 b 髪 c 人 d 夢

問 30 教育現場では、積極的に ICT を活用することが求められている。「ICT」を英語で表記しているものとして、最も適当なものを選びなさい。

- ① Information and Communicative Theory
- ② Information and Communication Technology
- ③ Individual Communicative Technology
- ④ Information and Communication Test
- ⑤ Interesting Communication Test

【正答】

問題番号	正答
1	5
2	4
3	2
4	4
5	2
6	5
7	3
8	4
9	3
10	5
11	1
12	1
13	2
14	4
15	5
16	1
17	2
18	3
19	5
20	4
21	1
22	1
23	5
24	全員加点
25	3
26	4
27	3
28	4
29	1
30	2